

# モニタリング結果報告書 (令和6年度)

## 1. 施設概要

施設名	神奈川近代文学館		
所在地	横浜市中区山手町110		
サイトURL	https://www.kanabun.or.jp/		
根拠条例	神奈川県立神奈川近代文学館条例		
設置目的(設置時期)	近代文学に係る図書及びその著者の遺品等を収集し、整理保存し、及び展示し、並びに近代文学に係る図書を閲覧に供するとともに、併せて県民に文化活動の場を提供するため。 (昭和59年4月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川文学振興会		
指定期間	R3.4.1 ~ R8.3.31 (2021年) (2026年)	施設所管課 (事務所)	文化課

## 2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>令和6年度は、特別展「帰って来た橋本治展」で神奈川近代文学館として初めて戦後生まれの作家の展示を実施した。特別展「安部公房展」では、他の展示とは異なり、遠方からの来館者、若年層の来館者が高い割合を占めた。</p> <p>空調設備等の修繕費の増や物価の高騰による経費の増など、維持費に大幅な増があったが、観覧料収入等の好調による増収分をあてることで、収支比率は100%となった。</p> <p>利用者満足は非常に高く、3項目評価は全体として良好であることから、A評価とした。</p> <p>今後も多様な分野の展示や集客力のあるイベントを実施し、展示室、会議室等の利用率の向上、近代文学及び近代文学館への興味を喚起できる取組の充実を期待する。</p>
<p>&lt;各項目の詳細説明&gt;</p> <p>◆管理運営等の状況 インターネット利用登録者数が増加している影響もあり、年間の展示室入館者数は令和5年度と比較し減少している。</p> <p>◆利用状況 展示室・閲覧室・会議室利用者数は、Web会議システムなどの普及の影響もあり、利用者数が伸びず、目標達成率は88.8%となったため、B評価となった。今後、利用率を上昇させるための取組としては、無料Wi-Fiの設置、プロジェクター、スクリーンを会議室への常置を検討している。</p> <p>◆利用者の満足度 令和6年10月～12月の特別展「安部公房展」（入場者数11,319人）の実施時期に、来館者、ホームページ閲覧者を対象に満足度調査を行い、上位2段階の回答割合が94.1%だったため、S評価となった。</p> <p>例年よりも多くのイベントを開催したこと、遠方からの来館者が多かったことで、多様な意見を集めることができた。</p> <p>◆収支状況 空調設備等の修繕費増により維持費の支出増、物価の高騰による全体的な経費の増があったが、観覧料収入等の好調による増収をあてることで、収支比率100%となり、A評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 来館者から寄せられた要望等については、近代文学館で適切に対応した。</p> <p>◆事故・不祥事等 なし。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 令和6年度の3項目評価についてはA評価とした。</p>

## 3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況 (項目6参照)	利用者の満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう。
A	B	S	A	<p>S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要</p>

#### 4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	随時 (月1～2回程度)	工事予定箇所及び工事実施状況の確認等を行った。
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月1回程度	施設の利用状況や懸案事項等について協議した。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	指導・改善勧告等の内容

#### 5. 管理運営等の状況

〔 指定管理業務 〕

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
・より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。（集客を目指す展示、独創性のある展示、他機関との連携など、事業の広がりを意識した展示など）	4～6月 特別展「帰って来た橋本治展」 入場者数11,033人	<p>・特別展「帰って来た橋本治展」は、当館としては初めての戦後生まれの作家の展示となった。橋本の代表作「桃尻娘」シリーズの最終章では当館のある「港の見える丘公園」が登場するなど神奈川とゆかりが深い。原稿だけではなく、舞台やイベントの資料、自ら編んだセータなど様々なものを展示した。雑誌や報道各社で取り上げられたことや、主な読者層が現役世代で健在であったことなどもあり総観覧者数は11,033人となった。</p> <p>・秋の特別展「安部公房展——21世紀文学の基軸」では幅広い年齢層の来館者があった。特に、リアルタイムの読者であった50～60代の現役世代と、再読している10～30代の若年層が目立った。</p> <p>・冬季は常設展を開催した。常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち——第2部 芥川龍之介から中島敦まで」ではアニメ・漫画作品とコラボレーションを実施。事前予約制をとるなど混雑対策を行った。</p>
	6～8月 企画展「没後15年 庄野潤三展」 入場者数4,307人	
	8～9月 企画展「没後10年 古田足日のぼうけん」 入場者数4,297人	
	10～12月 特別展「安部公房展——21世紀文学の基軸」 入場者数11,319人	
	1～3月 常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち——第2部 芥川龍之介から中島敦まで」 入場者数4,726人	

・館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会を積極的に開催する。	・特別展「帰って来た橋本治展」では2019年以降、遺族・関係者から寄贈された直筆資料をはじめとする「橋本治文庫」を中心に、原稿、舞台やイベントの資料、手製のセーターなど幅広い展示を行った。 ・企画展「没後15年 庄野潤三展」では、遺族から当館に寄贈された「庄野潤三文庫」を中心に、その文学と生涯を振り返る展示を行った。 ・企画展「没後10年 古田足日のぼうけん」では、当館が遺族から受贈した原稿や創作メモのほか、白梅学園に寄贈された旧蔵書関連資料、田畑精一、久米宏一、堀内誠一らによる代表作の原画など幅広い資料を展示した。	・展覧会についての報道を通じて近代文学館の資料収集成果をPRすることができた。
・特別展や企画展と連携をした講演会、朗読会、講座、映画会など開催し、利用者のニーズに応える。	4～6月 橋本治展記念講演会 1回 同展記念講演と対談 1回 同展ｽﾗｲﾄﾞﾄｰｸ 8回 同展記念上映会 1回 (開館40周年記念企画 3回) (学会(共催) 1回)  6～8月 庄野潤三展記念ﾄｰｸｲﾍﾞﾝﾄ 1回 同展記念ﾄｰｸｲﾍﾞﾝﾄ 1回 (兼文字活字文化振興事業) 同展ｽﾗｲﾄﾞﾄｰｸ 3回 (開館40周年記念企画 1回) (学会(共催) 1回) (高校生向け事業 1回)  8～9月 古田足日展記念講演 1回 同展ｽﾗｲﾄﾞﾄｰｸ 3回 同展記念ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 2回 同展記念朗読ｺﾝｻｰﾄ 1回 (かなぶんｷｯｽﾞｸﾗﾌﾞ ＜映画会、紙芝居、絵本の読み聞かせほか＞ 6回) (DVD上映会 1回) (学会(共催) 1回)  10～12月 安部公房展記念対談 3回 同展ｽﾗｲﾄﾞﾄｰｸ 8回 同展体験ｲﾍﾞﾝﾄ 2回 (同展記念上映会 2回) (「文字・活字文化の日」記念行事 ＜ｽﾗｲﾄﾞﾄｰｸ＞ 1回) (開館40周年記念企画 1回) (高校生向け事業 1回) (かなぶん寄席落語会 1回) (研修会(共催) 1回)  1～3月 常設展第2部関連企画 4回 (山手周辺文学散歩) (開館40周年記念企画 3回) (かなぶん連句会 1回) (朗読会(共催) 1回) (かなぶんｷｯｽﾞｸﾗﾌﾞ ＜映画会、紙芝居ほか＞ 2回)	・展覧会に連携した講演会、文字活字文化振興を目的とした講演会等の多彩なイベントを実施した。 ・感染対策を行いながらも、今年度は定員を絞ることなく実施した。 ・40周年記念企画として、初の試みのかなぶん寄席落語会を開催した。 ・今年度も学会の共催を積極的に行った。 ・新型コロナウイルス感染症による休館期間から開始したオンライン事業でも、去年に引き続き動画視聴数を伸ばすことができた。 ・常設展第2部連動企画として、初の試みの山手周辺文学散歩を行った。

	1～3月 常設展第2部関連企画 4回 (山手周辺文学散歩) (開館40周年記念企画 3回) (かなぶん連句会 1回) (朗読会(共催) 1回) (かなぶんキッズクラブ <映画会、紙芝居ほか> 2回)	
・専門図書館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。  [参考] レファレンス：文学に関する情報や資料の各種問合せに対し、情報提供、調査のレポートを行うサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設からの照会もある。	レファレンス件数 202件	・利用者からの様々な問合せに対応し、専門的施設としての役割を果たした。

[ 参考：自主事業 ]

事業計画の主な内容	実施状況等
開催中の文学展と連携した読書コーナーを閲覧室内に設け、来館者の展示観覧後の読書意欲を満たす環境を提供することで収蔵資料の利用を促進する。	4～6月 特集・橋本治 利用者数1,932人 6～8月 特集・庄野潤三 利用者数831人 8～9月 特集・古田足日 利用者数772人 10～12月 特集・安部公房 利用者数1,175人 1～3月 特集・芥川龍之介 利用者数698人 3月 特集・大岡信 利用者数175人
「神奈川近代文学館友の会」の会員を募り、文学館事業への参加を促す。	会員数1,034名 友の会会員の集い 1回 文学散歩 5回 読書会 2回 近隣博物館訪問 1回 ・冬季の常設展開催期間の近隣博物館訪問を行った。また、昨年に引き続き読書会を開催した。
文学振興に理解ある法人や個人から資金面で財団事業を支援していただくため「神奈川近代文学館を支援(サポート)する会」会員を募り、広報宣伝活動にも協力いただく。	会員数102名(142口) 機関紙「神奈川近代文学館」の配布、展覧会への招待を行い、「支援する会」会員の企業及び団体からはポスターの掲出、チラシの配布、学校動員など各展覧会について広報宣伝活動の支援を受けた。
研究者や専門家の立場から学術面等で協力を得るための支援組織「神奈川近代文学館懇話会」により人的ネットワークによる事業支援をいただく。	会員数76名 機関紙「神奈川近代文学館」等の配布を通じて最新の事業内容を報告、会員からは総会場で事業運営等について意見や提言をいただいた。12月に第15回総会を開催 参加人数13人

## 6. 利用状況

評価	《評価の目安》
B	目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。

	前々年度	前年度	令和6年度
利用者数※	57,983	62,557	53,824
対前年度比		107.9%	86.0%
目標値	48,400	60,400	60,600
目標達成率	119.8%	103.6%	88.8%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）：

観覧券の枚数、受付係員がカウント(展示観覧者数)＋閲覧カウンター職員がカウント(閲覧室利用者数)＋利用申請者が予約システムに入力した人数(会議室利用者数)

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

### ＜備考＞

令和2年度第3回第三セクター等改革推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、令和3年度～令和7年度の目標値を設定した。会議室利用者数はコロナ禍以前の平成29年度～令和元年度には計2万人を越えていたが、全体的な利用者数の回復がみられた令和4年度で10,468人、その後令和5年度は11,361人、令和6年度は11,333人と半減したままであり、Web会議システムなどの普及の影響も考えられる。

7. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口で常時用紙を備え、利用者に記入していただくなど、簡便な方法で随時実施するアンケート  (2) 詳細アンケート アンケート用紙を利用者に一斉に送付し、回収・分析するなど、詳細な内容で定期的実施するアンケート 令和6年度は以下の方法で実施した。 ①来館者アンケート 展示室出口に常時用紙を設置し行うほか、受付でWebアンケートのリンクを配布し実施した。イベント参加者、会議室利用者、閲覧室利用者へも用紙を配布した。 ②未来館者アンケート 来館していない方を対象にWebアンケートを実施した。実施にあたってはXやHPで告知した。	例年の展示と比較し、幅広い年齢層が来館した。特にアンケートの回答者のうち29.3%が30歳代以下、32.2%が40～50歳代で、過半数がWebでの回答であった。インターネットやSNSを盛んに利用する世代の来館が多く、特設サイトの作成や、公式SNSの運用が一定の効果をもたらしたと考えている。 ・県内、都内、県外それぞれからの来館者の割合は、前年度の井伏展とそれほどかわらないものの、遠方から安部展を目指して来館して良かったとの満足の声が多かった。 ・展示の内容については、安部公房に関する展示自体が2003年に世田谷文学館で開催されたもの以来で、若年層のアンケートには「初めて安部公房の展示を見た」という声も多かった。また、公房だけでなく、公房作品の装丁、挿絵、舞台美術を手がけた夫人・安部真知の展示に対しても評価の声が寄せられた。

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 来館者：以下の項目について、どのようにお感じになりましたか。>④全体評価  
Web：8. 利用なさっての全体評価をお願いします。

実施した調査の配布方法 受付等に配架、HP掲載 回収数／配布数 824 / =

配布(サンプル)対象 来館者(展示観覧、イベント、会議室、閲覧室)、HP利用者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	368	282	36	5	691	
回答率	53.3%	40.8%	5.2%	0.7%		
前年度の回答数	311	161	5	3	480	
前年度回答率	64.8%	33.5%	1.0%	0.6%		
回答率の 対前年度比	82%	122%	500%	116%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備 考>

## 8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設≫ 収入合計／支出合計の比率が、S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[ 指定管理業務 ]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	410,043	8,259	6,054	受取利息収入 15 事業収入 5,830 雑収入 209	424,356	424,356	0	
	決算	410,043	14,674	39,894	受取利息収入 2 事業収入 6,351 雑収入 188 寄附金収入1,100 補助金収入 109 退職給付引当預金 取崩収入 32,144	464,611	464,610	1	100.00%
前年度	当初予算	410,043	8,559	27,623	受取利息収入 15 事業収入 6,130 立替金収入 157 雑収入 152 退職給付引当預金 取崩収入 21,169	446,225	446,225	0	
	決算	413,887	15,463	27,015	受取利息収入 2 事業収入 7,204 立替金収入 0 雑収入 185 退職給付引当預金 取崩収入 19,624	456,365	456,362	3	100.00%
令和6年度	当初予算	410,043	8,859	6,754	受取利息収入 15 事業収入 6,430 立替金収入 0 雑収入 309	425,656	425,656	0	
	決算	410,043	14,638	15,306	受取利息収入 14 事業収入 12,386 立替金収入 0 雑収入 129 寄附金収入 5 退職給付引当預金 取崩収入 2,772	439,987	439,984	3	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

令和6年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

9. 苦情・要望等 ☐ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	アンケート	2 件	照明が暗い。	資料保存の為、照度を抑えている旨の掲示を増やした。
	アンケート	1 件	写真撮影がしたい。	橋本治展ほかの各展で写真撮影可能なコーナーを用意した。
	アンケート	5 件	他の来館者の話し声が気になる。	展示室内に貼紙をしたほか、定期的に職員が見回りを行った。
職員対応		件		
事業内容	アンケート	3 件	オリジナルグッズを増やしてほしい。	常設展開催時に「文豪の言葉バッジ」を新たに作成した。その他にも新たなオリジナルグッズを検討中。(自主事業)

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 ☒ 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。